

都中P通信

No. 14



PTA 2011 HIROSHIMA

発行 平成23年10月 東京都公立中学校PTA協議会 会長 水上 幸夫

第59回日本PTA全国研究大会が、平成23年8月26日(金)・27日(土)の2日間、広島県で開催されました。

27日の全体会では開会式に先立ち、東日本大震災で犠牲になられた方々に対し全員で黙祷をささげました。式典後、記念講演が行なわれ、最後に「がんばろう日本！がんばろうPTA！」として広島県出身の原田真二氏による復興支援コンサート[Heart Aid]があり、「日本が大変なときこそ、ひとり一人が今できること、やさしさのアクションを起こしましょう！」との呼びかけに、会場からも大きな拍手がありました。フィナーレでは、日P相川会長より被災地のPTA協議会に義援金が贈呈され、子どもたちと会場全員による8,000人コーラス「Believe(ビリーブ)」で終わりました。

< 8月27日(土) 全体会・記念講演 講師：乙武 洋匡 「みんなちがって、みんないい」 >

乙武洋匡(オトタケヒロタダ)氏を講師にお迎えし、「みんなちがって、みんないい」をテーマに記念講演が行なわれました。早稲田大学在学中に「五体不満足」を出版し、大学卒業後はスポーツライターとして様々な媒体で執筆。明星大学の通信課程に学び小学校教諭2種免許状を取得。2007年から3年間、杉並区の小学校教諭として勤務し、3・4年生を担当しました。講演の中では3年間の教師をしていたときの状況や感じたことを話され、「学校と家庭の信頼関係が大切」と強調し、そのために行なってきた毎日家庭に電話をしてきたことについて話されました。

また、「3月に発生した東日本大震災では、自分にはできないことが多く、障害者は弱者だと思え、皆と同じことができないと無力感にとらわれたが、できないことも自分らしさであり、自分にできることをすればいいのだと考えられるようになった。人がお互いに足りないところを助け合って補い、支え合ってより良い社会を作ることが大切」と力強く話されました。

< 8月26日(金) 分科会 分科会では熱心に学び合い、PTAとしての資質向上の研修を行いました >

第1分科会 (呉市) … 組織運営
語り合い、手を携え、より良い実感を見つけよう
～ 未来につなげる希望のバトン 親として、そして何より人として～

第2分科会 (安芸郡府中町) … 家庭教育
かかわろうや たのしもうや 子どもたちと！

第3分科会 (三原市) … 学校教育
子どもたちに「たくましく生きる力」を育む社会の実現をめざして
～ 市民協働で 今 種をまく時～

第4分科会 (三次市) … 広報活動
効果的な広報活動の確立のために

第5分科会 (尾道市) … 地域連携
ふるさと再発見で地域活性
～ ふるさとを誇る心を育む～

第6分科会 (尾道市) … 人権教育
いのち輝け！
～ 人間力を伸ばして生き活きた子どもに育てよう～

第7分科会 (廿日市市) … 平和教育
子どもたちと創っていく明日
～ 親として大人として子どもたちに伝えること～

第8分科会 (府中市) … 健康安全
食は心なり
～ 心豊かな子どもを育む食と生活習慣～

特別第1分科会 (東広島市) … 日本PTA担当
子どもといっしょに考えるケータイのより良い使い方
～ 有害情報から子どもたちを守るために～

特別第2分科会 (福山市) … 文部科学省協力
“生きる力” “親が育て 学校が磨き 地域が鍛える”
～ 今、求められているキャリア教育・職業教育～

<東京都教育委員会への要望>

9月に東京都教育委員会へ要望書を提出しました。回答については会議を設定していく予定です。

1. 少人数学級や学級編制の柔軟な対応について

平成21年12月17日付けで「小1問題・中1ギャップの予防・解決のための教員加配について」が通知され、22年4月より実施されましたが、学級編制の標準の引き下げの画一的な取扱により学級編制が小さくなりすぎないよう、また入学した時の学級数を3年間維持できるよう、柔軟な学級編制ができるようにお願いします。

2. 指導力不足の教員に対する対応について

残念ながら、指導力不足等の教員が存在しています。わずかであるとはいえ、学校の信頼をなくし、保護者に不安を起こす原因となっています。各学校での管理職が厳しい指導、また、各教育委員会による指導もあると思いますが、それでも改善されない教員には、学校への配置をはずし、都による徹底した改善のための研修をお願いします。

3. 養護教諭の増員について

養護教諭は出張や生徒の病院への搬送付き添いに保健室を施設せざるを得ない状況も多く、本協議会では過去何度も養護教諭の複数配置をお願いしてきました。各地区、各校で、支援のボランティアを頼んだりメンタルサポーターを置いたりするようになりましたが、生徒にとっては、常駐する養護教諭が大きな存在になっています。しかし、その受け持つものが多岐にわたるようになり、一人では対応しきれない状態です。団塊の世代の大量退職に伴いベテランの養護教諭の退職も増加していると思います。東京都として、再任用(再雇用)等を大幅に拡充するなどして、養護教諭の複数配置の推進を、文科省に先駆けてご検討をお願いします。

4. 部活動について

学校事情によって部活動が充分に行えないところがあり、各地区では、外部指導員を導入し対応していますので、本協議会では外部指導員の資質向上を図るよう要望してきております。顧問教諭と外部指導員を対象にした「部活動指導者講習会」を部活指導時間の扱いとし、より多くの指導者に出席していただけるよう、支援をお願いします。教育の一環として行われている部活動ですから、教員でなくとも相応の指導力、知識等は必要だと考えています。

5. 震災への対応について

東京が被災地となってしまった時、東京都は、区市の公立中学校をどのように位置づけるのでしょうか。東京都では学校の耐震化について積極的な推進を図っていただいておりますが、避難場所として備えるべき、必要な防災機能の基準の作成や整備向上を促し、都としての新しいガイドラインの設定や財政を含めた支援をお願いいたします。

<都中Pフォーラム>〔中学校PTAリーダー研修会〕

日時:平成23年12月10日(土) ・14時～16時30分(17時15分～18時 理事会)

場所:多摩市立永山公民館ベルブホール

テーマ:「地域のつながり」～その時あなたは?～(防災に関して) 基調講演、グループワーク

<PTAアカデミー>

日時:平成23年11月16日(水) ・19時～20時 (18時～19時 理事会)

場所:足立区立綾瀬プルミエ 2階 第3洋室

内容:教員の人事配置について

講師:東京都中学校長会より

<東日本大震災義援金について>

東日本大震災への義援金について皆さんにご協力いただき、都中Pから日本PTA全国協議会(=日P)へ送金しました。日Pに所属する61の地方協議会から集まった義援金は2億円を超え、この義援金について改めて日Pより報告がありました。

(1) 義援金は、岩手県、宮城県、仙台市、福島県、青森県、茨城県の各PTA協議会に計5千万円を一時金として5月19日に配布。

(2) 東日本大震災対応委員会を設置し、検討。現在までに集った義援金は全て被災県(市)へ早期に配布することと意見集約。

○被災状況は地域ごとに異なる。子どもたちの学びの環境を整えるためにも一刻も早く復興資金を投入する必要がある。

○被災地の子どもたちの状況により様々なニーズに対応する必要があり、そのためには被災地のPTA協議会に用途を判断していただくのが一番望ましい。なるべく早い段階でなるべく大きな金額が被災地のPTA協議会に配分されることにより、大きな枠でより適時的確な支援計画が可能となる。

○岩手県、宮城県、仙台市、茨城県、福島県(放射能対応分を考慮)の各PTA協議会に、計1億6千万円を配布。

(3) 第59回日本PTA全国研究大会ひろしま大会全体会の中で、義援金の贈呈を行なう。

日本PTA全国協議会では長期にわたる支援を打ち出しています。都中Pにおきましてもゆうちょ銀行口座を開設しておりますので、継続してご協力いただきますようお願いいたします。

セイフティプラン24

中途加入できます

地震、噴火、津波を原因とする場合も対象

都中Pが厚生事業として運用している会員向け団体保険。個人会員で加入。犯罪被害にも対応しており、東京都の「犯罪被害者等支援を進める会議」においても、他保険ではあまりない被害事故補償(交通事故含む)を打ち出した保険として高い評価を得ている。加入、問い合わせは都中Pまで。E-mail: jpta@Tokyo-Jpta.org